

# 学術情報センター

センター長 南 沢 享

学術情報センターは、本学の教育、研究、医療、管理・運営における学術情報利用に関する業務を担当しており、図書館、標本館、写真室、史料室、医学英語研究室、国際交流センターから構成される。

学術情報センターの業務に関する管理・運営は、学術情報センター運営委員会にて審議・決定がなされる（「東京慈恵会医科大学学術情報センター運営委員会規程」（2016年8月1日制定））。

## 図 書 館

### 1. 年間実績

#### 1) 蔵書冊数

単行書		雑誌		年度末 総数	年間増減	
和	洋	和	洋		増	減
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
72,271	34,944	63,395	91,390	262,000	1,551	2,213
受入誌（冊子）数				電子ジャーナル提供数		
和		洋		和	洋	
種		種		種	種	
560		89		1,392	7,095	

#### 2) 図書購入費及び製本費

単行書 購入費	雑誌 購入費	計	製本費	
			金額	冊数
円	円	円	円	冊
5,532,188	18,156,239	23,688,427	0	0

#### 3) 図書館利用状況

館外貸 出冊数	学外他館との 相互利用件数		複写サービス		文献検索 サービス
	貸	借	件数*	枚数	
冊	件	件	件	枚	件
7,600	1,380	1,715	2,417	33,056	108,588

\*セルフサービス件数を除く

### 2. 主な事項

#### 1) 図書・雑誌の管理、利用に関すること

本学の教育、研究、医療、管理・運営のために図書館での利用が必要とされる図書・雑誌を、新刊情報、教職員からの推薦、学生からの希望、各種書評を考慮して、図書館委員会の承認により選定、購入した。なお、図書館委員会で作成した「基本洋図書リスト（2017年12月改訂）」と「コア雑誌リスト（2008年9月改訂）」にリストされている図書・雑誌は優先的に購入した。

#### 2) 電子ジャーナル・データベースの管理、利用に関すること

電子ジャーナル・データベースの大学ネットワーク上での利用のために、ホームページに電子ジャーナルタイトル一覧やデータベース利用マニュアルを掲載したり、教職員を対象としたデータベース講習会を随時開催した（2019年度参加：延べ51名）。また、電子ジャーナル・データベースを学外から利用するための「リモートアクセスサービス」の運用も継続した（2019年度新規登録：331名）。

2019年8月に、大学にて抄録・引用文献データベース Scopus（エルゼビア社）が導入された。Scopusの活用促進は学術情報センターが担当することとなり、2019年11～12月に西新橋キャンパス、葛飾医療センター、第三病院、柏病院にて、エルゼビア社講師による説明会を開催した。

電子ジャーナル・データベースの2020年度利用契約では、2019年度の内容を継続することを基本的な方針としたが、電子ジャーナルに関しては、値上がりへの対応のため、利用単価（契約額／利用回数）の高額な10誌の購読を2019年12月末で中止した。なお、エルゼビア社の電子ジャーナル約2,000誌のPay Per Viewによる利用を継続した（2019年利用：8,841件）。

#### 3) 図書館システムの管理に関すること

2017年7月にリプレースされた図書館システム（リコー社「リメディアオ」）を円滑に運用できるように管理した。

2018年度からマイライブラリ機能（利用登録者222名（2019年度末））を利用して、インターネット経由による貸出延長・予約、分院からの複写申込を可能としてきた。2019年4月からは、西新橋教職員からのマイライブラリによる複写申込の受付も開始した。

図書館システムのバージョンアップ（2019年10月末）により、「お知らせ」と「カレンダー」をインターネット上に掲載することが可能となり、利用者へのインターネット経由での連絡事項を即時に公開できるようになった。

#### 4) 図書館利用の支援に関すること

演習関係の支援として、医学科1～3年、看護学科1、3年の図書館利用説明と情報検索演習、附属4病院在職看護師を対象としたエデュケーションナース研修と東京慈恵会教務主任養成講習会での演習、研修医シミュレーション研修の情報検索演習を担当した。

新聞の利用に関して、図書館にて購読している4紙（全国紙）に掲載された医療及び大学関係の記事の見出しを学内に電子メールで配信するサービスを継続した（登録97部署）。

施設課による整備として、2019年7～9月に、図書館入退館ゲートシステム／図書無断持ち出し防止システムの交換工事、図書館2階の男子／女子トイレの改修（男子トイレドア塗装、女子トイレドア塗装・便座交換）、図書館入口LED照明の設置、図書館入口監視カメラの設置、1階閲覧室ケースマッチ用パソコン8台の図書館入り口付近から1階閲覧室奥への移動が実施された。

医学科学生会からの要望により、試験期間である2019年8月10～25日と2019年11月16日～2020年1月13日の土・日・祝日の開館時間を延長・変更した（土曜日：8：00～21：00開館（通常8：00～19：00）、日曜日：13：00～21：00開館（通常9：00～17：00）、祝日：13：00～21：00開館（通常休館））。

#### 5) 担当雑誌・年報の編集に関すること

『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2018（第38号）』、『Research Activities 2018』の編集作業を担当した。

#### 6) 学術リポジトリに関すること

『東京慈恵会医科大学雑誌』、『Jikeikai Medical Journal』、『Research Activities』、『教育・研究年報』の内容を登録した。また、学位審査の結果要旨、主論文の学術リポジトリへの登録作業、主論文を登録

する際の著作権関連の問合せへの対応を担当した（2019年度学術リポジトリ登録：326件、閲覧26,206件）。

#### 7) 医学論文書きかた講習会の開催

Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催による「医学論文書きかた講習会」の開催を担当した。本講習会は、大学院共通カリキュラムの必須科目「医学研究概論」の授業を兼ねており、2019年度は以下の4テーマにて開催された。

- ・「差が出る研究テーマ選択の考え方～臨床研究法施行をうけて～」（2019年5月14日）（参加68名）江田 誉先生（2002年卒、千葉大学大学院医学研究院整形外科学客員教授、ファイザー株式会社骨粗鬆症エリア推進チーム担当部長）
- ・「質の高い論文は質の高い研究計画から生まれる」（2019年5月16日）（参加64名）西川正子教授（臨床研究支援センター）
- ・「Treatable Signs and Symptoms of Japanese Medical Writing」（2019年5月28日）（参加65名）岡崎真雄教授（学術情報センター医学英語研究室）
- ・「Understanding aspects of formal academic writing」（2019年5月30日）（参加53名）小原 平教授、ジョン・スーリア講師（英語研究室）

#### 8) 剽窃・盗用チェックシステムの運用

2016年11月に導入された剽窃・盗用チェックシステム Turnitin Feedback Studio に関して、医学科の授業（病院業務実習、コース医学総論V）での使用、大学院講義「医の倫理」での説明のほか、前年度に引き続き、学内教員の利用登録を担当した（2019年度新規利用登録：14名）。

#### 9) その他

##### (1) 図書館利用規則の改定、利用細則の制定

飲食に関して密閉できる容器に入った飲み物の館内（西新橋・国領）での飲用を認めることとなったため、図書館利用規則を改定した（2019年7月25日付）。さらに、図書館利用細則を制定し（2019年7月25日付）、利用規則違反者に対するペナルティを定めた。

##### (2) 自然災害時の臨時閉館・休館に関する内規の制定

学術情報センターの対応を定めた内規について学術情報センター運営委員会で承認され（2019年12月25日）、制定した。

(3)『東京慈恵会医科大学大学記録第Ⅸ号（平成26年度～30年度）』の編集

『東京慈恵会医科大学大学記録第Ⅷ号（平成20年度～25年度）』に引き続き編集作業を担当し、2019年4月に各部署に執筆依頼をして、2020年3月末に発行となった。

(4)「コミュニケーションが医療を変える」講演会の共催

公益財団法人生存科学研究所の主催により2019年11月10日に大学1号館3階講堂にて開催された講演会を共催した。

(5)新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休館

2020年3月30～31日の開館時間を短縮、2020年4月1日から休館とすることとした。

### 「点検・評価」

図書館の管理運営は、図書館委員会で審議される(学術情報センター図書館委員会規程(2019年4月1日改定))。2019年4月、規程に基づいて、学術情報センター長の指名により新たな図書館委員が選出され、委員会が再構成された。2019年度は、図書館委員会は一定出席者数のもとで開催され、またメーリングリストも利用され、各審議事項に関して円滑に意見交換をする環境が整い、図書館の管理運営の充実を図ることができた。

図書・雑誌、電子ジャーナル・データベースの購入選定、利用環境整備、図書・雑誌の除籍は、図書館委員会の審議により進められた。購入選定は、「蔵書構築マニュアル(2003年4月制定)」に基づき、特定分野に偏らず、また利用者が限定される専門書は対象としないとの方針により進めている。なお、和図書は医学関連の新刊図書を全般的に購入しているが、個人での購入・活用を意図した図書もあるため、和図書の選定方法の見直しも課題として挙げられた。

電子ジャーナルは、パッケージでの契約が主流であるため、値上がりへの対応は、個別購入タイトルから利用単価の高額なものの中止となってしまう。研究者数の少ない分野の雑誌について考慮したり、パッケージ契約から個別契約への切り替えの可能性について確認する必要がある。また、Pay Per Viewの利用件数の増加に対しては、図書館にて利用登録者と利用者ごとのダウンロード回数を把握できるように、2020年度から利用登録方法を変更することとした。電子ジャーナルの利用経費については、受益者負担に関する議論及び他大学の事例の調

査を開始した。

オープンアクセス論文については、質や費用の問題が指摘されており、学術情報センターが、投稿者に対して、投稿誌選定を支援する体制の整備が今後の課題である。

学術情報センター運営委員会には、医学科・看護学科学学生に出席を依頼し、学生からの要望を聞く機会としている。医学科学学生会からの要望により、2018年度に引き続き、試験期間の土・日曜日・祝日の開館時間を試験的に変更した。希望する開館時間については、学生のアンケート回答でも一致した意見はなく、開館時間変更の効果を図書館委員会にて確認し、次年度以降の実施方法を審議することが求められる。

担当雑誌・年報の編集について、『東京慈恵会医科大学雑誌』と『Jikeikai Medical Journal』の編集に関しては、Jikeikai Medical Journal編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の合同委員会で、『Research Activities』に関しては、同合同委員会と教育・研究年報編集委員会で、『教育・研究年報』に関しては、教育・研究年報編集委員会にて審議がなされた。『教育・研究年報』と『Research Activities』について、冊子体を中止して電子化を進めていくことや掲載内容を見直すことに関してあまり審議されてこなかった。編集委員会が機能するようになり、編集内容を見直す必要性について合意がなされ、次年度(2020年度版)にむけて議論を続けていくことになった。

## 図書館国領分館

分館長 三崎 和志

### 1. 年間実績

#### 1) 蔵書冊数

単行書		雑誌		年度末 総数	年間増減	
和	洋	和	洋		増	減
冊	冊	冊	冊	冊	冊	冊
67,135	11,387	10,186	3,938	92,646	2,184	1,742

#### 受入誌(冊子)数

和	洋
種	種
182	42

## 2) 図書購入費及び製本費

単行書 購入費	雑誌 購入費	計	製本費	
			金額	冊数
円 7,227,881	円 4,762,119	円 11,990,000	円 615,600	冊 298

## 3) 図書館利用状況

館外貸出 冊数	複写サービス	
	学内	他大学
冊 6,818	件 341	件 19

## 2. 主な事項

国領分館は、医学科国領校、看護学科、第三看護専門学校の学生及び教職員、第三病院の教職員、研修医を主な利用対象者とする。国領分館の管理運営に関する事項は、国領分館運営委員会で審議した。そのほか、視聴覚資料の購入利用に関しては国領分館視聴覚資料選定委員会、学生用資料に関する事項は国領分館学生図書委員会にて対応した。国領分館の図書・雑誌購入に看護学科の事情を反映するために、看護学科図書委員会に国領分館職員が出席した。

2020年度から医学科1年の情報リテラシー教育に参加することとなり、2020年3月から国領校情報教育支援委員会に出席した。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年3月30～31日の開館時間を短縮、2020年4月1日から休館とすることとした。

## 「点検・評価」

国領分館運営委員会の役割と活動内容を明確にするために、「学術情報センター図書館国領分館運営委員会規程」を制定した（2019年6月1日付）。

図書の利用促進のため、教員に講義の参考となる図書の推薦を依頼し、購入した図書を館内掲示、ホームページで推薦図書として案内した。また、教職員による図書紹介を新着図書案内に掲載した。看護学分野の電子ブックの普及が進んでいるため、今後の導入の可能性を考えるために、電子ブックの機能や利用事例の調査をした。

## 標 本 館

## 1. 標本・視聴覚資料

1) 標本数	
マクロ標本	1,824点
顕微鏡標本	2,549点
2) 視聴覚資料	
ビデオ・プログラム	1,917セット
スライド・プログラム	601セット
16mm フィルム	37セット
コンピュータ・ソフトウェア	76セット
語学プログラム	206セット
その他	79セット

## 2. 主な事項

## 1) 標本館に関して

各種標本のメンテナンス（補修、ケース交換、ホルマリン液補充）、標本展示室の清掃を実施した。プラスチック標本作製中止（2018年度）に伴い、施設課により、2019年9月に老朽化したフリーザーの解体・廃棄がなされた。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2020年3月30日から休館とすることとした。

## 2) 総合展示に関して

2020年1月20～31日に、大学1号館ロビー、高木2号館地下1階ロビーにて総合展示を開催した（1テーマ）。

・「日本人晒浄頭蓋骨の下顎窩の解剖学的研究、ならびにそれを応用した顎関節症治療時の顎関節腔穿刺時の頭蓋窩損傷の偶発症についての検討」伊介昭弘教授（歯科）

## 3) 学会用備品の貸出に関して

高木会館減築・耐震補強工事に伴うエレベーター停止（2019年2月1日～5月6日）以降、マイクアンプは図書館カウンターにて貸出をすることとした。机、いすは、エレベーター停止時はF棟、エレベーター再開後は標本館にて保管している。

## 「点検・評価」

標本館の管理運営は、標本館委員会にて審議された（「東京慈恵会医科大学学術情報センター標本館規程」（2018年10月1日制定））（委員長：橋本尚詞教授）。

標本館の利用環境の改善のため、標本の補修・ケース交換を進めている。2019年度は、肺、肝臓

の標本 53 点について補修・ケース交換をした。その際、病変部位が確認できるように標本を入れる向きにも注意し、必要に応じ解説を加えた。

視聴覚資料 (DVD/CD, ビデオ) を標本館から図書館 1 階閲覧室へ移動することを予定していたが、保管・視聴スペースの確保が進まず、次年度の対応となった。視聴覚資料は利用が少ないため (2019 年度貸出: 1 件)、利用しやすい環境の整備が課題である。

## 写 真 室

### 1. 年間実績

- 1) 撮影・スライド作成: 135 件 (5,341 枚)
- 2) ビデオ編集機の利用: 72 件 (502.5 時間)
- 3) コンピュータによるカラープリント作成 (ポスター作成含む): 628 件 (11,693 枚)
- 4) 35mm スライド画像入力サービス: 1 件 (700 枚)

### 2. 主な事項

- 1) 教育・研究のための写真・ビデオ撮影, 画像入出力, カラープリントのサービス

患者病変部, 顕微鏡標本, 摘出標本, 電気泳動の写真撮影, 臨床実技トレーニングのビデオ撮影, スキャナからの画像入力とスライドや写真への画像出力, 大判カラープリンタによるポスタープリントを実施した。

高木会館減築・耐震補強工事に伴うエレベーター停止期間 (2019 年 2 月 1 日～5 月 6 日) 以降, 大判カラープリンタによるポスタープリントは図書館 2 階事務室にて受け付けている。2019 年 10 月からは, 写真室事務室を高木会館 2 階事務室内に移動して, ビデオ編集業務以外は, 図書館事務室と同フロアの高木会館 2 階事務室にて対応している。

レントゲンフィルムのプリント複製サービスの中止 (2016 年度末) に伴い, 現像機の分解・撤去作業が実施された (2019 年 11 月)。

- 2) 本学の広報活動の支援

学内施設や各種行事の写真の撮影・編集・管理, 各講座のホームページや学会プログラムに掲載する写真の撮影などにより, 広報活動を支援した。

### 「点検・評価」

写真室の管理運営については, 標本館委員会で審議されていたが, 2019 年度からは, 学術情報セン

ター運営委員会で審議されることとなった。

新型コロナウイルス感染防止への対応として, 学内各部署にてオンラインや CD-ROM による教材・研修資料の作成が増加しており, 2020 年 3 月以降, 写真室には教材・研修資料用の写真・ビデオ撮影の依頼が寄せられた。

写真室では, 写真撮影だけでなく, 画像ファイル加工, プレゼンテーション資料作成などにも対応しているため, 学術情報センター運営委員会にて, 現在の「写真室」という名称を, より業務内容を反映した名称に変更するのが適切ではないかの指摘がなされている。

## 史 料 室

### 1. 年間実績

- 1) 利用状況

	利用者数 (件)		合計 (件)
	学内	学外	
見学・資料閲覧	15	44	59
	50	21	
資料提供・貸出	51	19	70
	19		

### 2. 主な事項

本学の歴史及び学祖高木兼寛先生に関する資料の収集, 卒業アルバムや寄贈資料のデジタル化, 見学者の案内, 問合せへの回答のための調査を実施した。

2019 年 9 月に展示ケース内の展示物 (学祖軍医礼服・肖像画・勲章ほか全 18 点) にカビが付着したため, 2019 年 11～12 月に, 株式会社エフシージー総合研究所にカビ付着調査・カビ除去を依頼し, 2020 年 3 月 27 日～4 月 3 日に関東産業株式会社 (芝浦) にて展示物 18 点の燻蒸, 2020 年 4 月 3 日以降は, カビの再発生を防ぐために, 定温・定湿・防塵の倉庫 (三井倉庫株式会社大手町トランクルーム) に保管する準備を整えた。

### 「点検・評価」

本学の 2019 年度～2021 年度中期事業計画に挙げられている「デジタル史料室案の作成」は, 史料室が担当する内容である。2019 年度は具体的な案は構想できなかったが, 今後, 史料室の機能も考慮して取り組む予定である。

カビが付着した展示物 18 点は、学内に湿度管理されたスペースが用意できるまで倉庫保管となる。定湿スペース設備の工事の計画の際は、将来の史料室の移転場所や公開内容についても考慮することが必要となる。

## 医学英語研究室

教授：岡崎 真雄

### 教育・研究概要

#### I. 概略

医学英語研究室では、医学英語に関する教育・研究活動、本学教職員・学生への医学英語に関する相談を担当している。

#### II. 教育

2019 年度の担当は、以下のとおりである。

1. 医学科 2 年：コース外国語Ⅱのユニット「一般英語Ⅱ」(30 コマ)
2. 医学科 3 年：コース外国語Ⅲのユニット「医学実用英語Ⅰ」(20 コマ)

#### 「点検・評価」

学生教育及び学内発行英文誌『Jikeikai Medical Journal』、『Research Activities』の英文校閲を担当した。国際交流センター主催のインターナショナル・カフェや海外からの選択実習生のガイダンスにも関わり、本学学生と海外からの学生の交流をサポートした。

## 国際交流センター

センター長 芦田 ルリ

### 教育・研究概要

#### I. 海外協定校の拡大

2019 年 7 月、松藤学長、北看護学科長、芦田国際交流センター長、内田国際交流センター運営委員が、オーストラリアの The University of Queensland を訪問し、当大学の副総長や医学部部長等 10 名と意見交換を行い交流を深めた。

2019 年度は以下の 4 大学との交流協定を新たに締結した。

1. The University of Hong Kong (香港) 2019 年 6 月
2. The University of Queensland (オーストラ

リア) 2019 年 7 月

3. Mayo Clinic College of Medicine and Science (米国) 2019 年 11 月
4. Medizinische Universität Wien (オーストリア) 2020 年 2 月

#### II. 海外からの選択実習生の受入れ

海外医科大学からの選択実習生の受入れは、2019 年 4 月～2020 年 3 月の期間で 69 名(男子学生 33 名、女子学生 36 名)であった。なお、毎週月曜日に選択実習生と本学学生、教職員との交流会 (International Café) を開催した。

#### III. 海外選択実習生

応募者を面接して審議した結果、以下の通り教授会議にて 2019～2020 年度実習生として推薦した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により多くの学生が実習中止となった。

- ・ King's College London GKT School of Medical Education 5 名 (3 名実習中止)
- ・ Ludwig-Maximilians-Universität München 2 名 (1 名実習中止)
- ・ National Taiwan University 4 名 (3 名実習中止)
- ・ University of California, Los Angeles (UCLA) David Geffen School of Medicine 3 名 (3 名実習中止)
- ・ Stanford University 2 名 (1 名実習中止)
- ・ National University of Singapore 3 名 (1 名実習中止)
- ・ Chulalongkorn University 1 名
- ・ University of Hawaii John A. Burns School of Medicine 1 名 (1 名実習中止)
- ・ Seoul National University 2 名 (2 名実習期間短縮)
- ・ The University of Hong Kong Li Ka Shing Faculty of Medicine 2 名 (2 名実習中止)
- ・ The University of Queensland 2 名 (2 名実習中止)
- ・ Mayo Clinic College of Medicine and Science 2 名 (2 名実習中止)

#### IV. 医学科学生の英語医療面接実習の実施

医学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語医療面接実習を実施した。

- ・ オープンキャンパス英語医療面接実習 2019 年 8 月 13 日 (1 年生 4 名参加), 2019 年

8月14日（1年生5名参加）、2019年8月15日（1年生5名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－第1回セッション

2019年11月2日（5年生18名参加）※講義・練習：2019年10月19日

2019年11月9日（5年生19名参加）

・海外臨床実習へ向けての英語医療面接実習－第2回セッション

2019年12月7日（5年生15名参加）※講義・練習：2019年11月16日

2019年12月14日（5年生16名参加）

#### V. 看護学科学生の英語医療面接実習の実施

看護学科学生を対象にした外国人模擬患者による英語医療面接実習を行った。

・海外臨床実習へ行く学生の英語医療面接実習

2020年2月17日（3年生14名参加）

#### VI. 海外実習・留学支援セミナーの開催

2019年10月4日に南太郎博士（ブラウン大学医学部）による海外実習・留学支援セミナーを開催した。

#### VII. 選択実習（国外）報告会、医学科海外選択実習報告会の開催

2019年9月28日に岡崎真雄教授による学術発表（海外選択実習成果報告会）の方法に関する講習会を開催した。また、2019年度後輩向け海外課外実習体験発表会を開催した。2019年12月7日に2019年度海外選択実習成果報告会を行った。2019年度海外選択実習生15名の報告の審査結果を教学委員会に報告の後、学長から優秀賞が3名に授与された。

#### VIII. 危機管理セミナーの開催

2019年7月5日、2019年12月23日に海外実習予定者のための危機管理セミナーを開催した。

#### IX. 第3回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウムの開催中止

2020年3月19日に第3回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウムを開催するため準備を進めたが、新型コロナウイルス感染拡大により、講演者の来日が困難となったため中止となった。併せて、2020年3月23日にMayo Clinic Dr. James S Newmanのシミュレーション実習を開催するため準備を進めたが、これも新型コロナウイルス感染拡大を受けて

中止となった。

#### X. 「IELTS セミナー」、 「TOEFL iBT テストスキルアップセミナー」の開催

2019年12月18日にIELTSセミナーを開催した。また、2019年12月9日にTOEFL iBT テストスキルアップセミナーを開催した。

#### XI. 奨学金、助成金の支給

海外での学習、発表等に対する奨学金や助成金の支給に関する業務を担当した。

1. 宮本幸夫を応援する会による海外派遣助成：前期2名30万円、後期1名10万円

応募者から国際交流センター運営委員会が選考し、教授会議に報告の上、学長が決定した。

2. 学外研究員：2017年度選考者1名153万円（3年目）、2018年度選考者1名366万円（2年目）、2019年度選考者1名366万円（1年目）

2020年度学外研究員を、推薦された候補者から国際交流センター運営委員会にて選考した候補者と選考過程を学長に報告し、学長により決定された。

3. 慈恵医師会海外選択実習奨学金：13名206万円

希望者から国際交流センター運営委員会が選考し、教学委員会に推薦した。教学委員会は支給者を決定し、教授会議に報告した。

4. 独立行政法人日本学生支援機構2019年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）：6名56万円（派遣）、9名72万円（受入）

協定校での選択実習希望の学生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定派遣）。また、協定校からの海外選択実習生から国際交流センター運営委員会が選考し、独立行政法人日本学生支援機構に申請の上、支給した（協定受入）。

#### 「点検・評価」

海外からの選択実習生の受入は69名で、前年度より半減した。新型コロナウイルス感染拡大による渡航禁止や受入中止などの影響が大きかった。海外で選択実習を行う学生は22名で前年度よりも増加した。海外で選択実習を行う学生には、英語医療面接実習の実施のほか、各種セミナーの開催、奨学金の手配などの支援を行った。毎週月曜日に開催している、選択実習生と本学学生、教職員との交流会（International Café）に於いてもほぼ毎回実習生か

らの発表があり、盛況であった。第3回慈恵－Mayo Clinic ジョイントシンポジウムと、Mayo Clinic で行われている実践的なシミュレーション教育の開催に向けて、双方の担当者間で綿密な準備を進められた。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて2019年度での開催は中止となったが、次回開催を目指し良好な関係を継続していく。

## 研究業績

### Ⅲ. 学会発表

- 1) 原田芳巳, 平山陽示, 倉田 誠, 芦田ルリ, 黒須三恵. (口頭) 『ユネスコ生命倫理コアカリキュラム』(Section 2: Study material) を用いた臨床倫理ワークショップ. 第51回日本医学教育学会大会. 京都, 7月. [医教育 2019; 50(Suppl.): 126]
- 2) 及川沙耶佳, 芦田ルリ, 武田 聡. (口頭) Cultural competency のシナリオ開発に向けた本邦在住外国人の意識調査について. 第51回日本医学教育学会大会. 京都, 7月. [医教育 2019; 50(Suppl.): 178]
- 3) 芦田ルリ. (セッション3: 特色ある教育・研究の取り組み) 慈恵医大・国際交流センターの取り組み: イギリス医学との交流. 鹿児島大学医学部および鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・東京慈恵会医科大学包括的連携に関する協定に基づく学術交流第1回合同シンポジウム. 東京, 7月.
- 4) Ashida R. (Oral) Training faculty to care for patients with cultural humility – an immediate need towards the 2020 Olympics. 5th International Conference on Faculty Development in the Health Professions. Ottawa, Sept.